

後志【倶知安町】

まるや ともこ
丸谷 智子さん グローバルコミュニケーター、アロマセラピスト

札幌市出身。通訳翻訳やイベントコーディネーターを経てTomo Global Communicationsを起業。ニセコ地区で地域づくりや多文化共生を支えるグローバルコミュニケーターとして活動しながら、アロマセラピーのサロン香氣を開業。また、倶知安羊蹄太鼓保存会鼓流のメンバーとして活動。



言葉をつなぎ、文化を伝え、多文化共生の架け橋に

きっかけ

15歳のときに英語を使う楽しさに目覚め、高校卒業後日本を飛び出しカナダ留学やヨーロッパ放浪の旅を経てカナダへ移住。アロマセラピーを学び、セラピストとして大手SPAで働いていました。多文化が共生するカナダの暮らしで、旅行ではわからなかった人々の考え方や文化の違いなどに直面し、改めてコミュニケーションの重要性を感じました。帰国後は通訳や翻訳の仕事をしながら英語を使う便利屋として人々に関わるうちに、グローバルコミュニケーターとして起業し、現在は倶知安に拠点を置いています。ニセコ地区で日本人も外国人も楽しめる多文化共生が実現できたら、という思いで仕事をしています。

苦勞

後志での就業を望む外国人と求人企業をマッチングする道の事業に関わっており、利用者の皆さんのサポートをしています。ニセコ地区に住んでいる外国人の皆さんは国籍・宗教などの背景が多様。ライフスタイルが様々なため、それぞれの価値観を尊重しながらマッチングやサポートを進めないと小さなことで大きなトラブルに発展してしまふことがあります。時代の変化と共に、世の中の常識や在り方は変わっていきます。私自身も時代に合わせてアップデートし、ベストな方向に舵取りが出来るよう、常にアンテナを張り情報収集をして、また頼れる仲間たちとの連携を大切に進んでいきたいです。

満足度

コロナ下で海外留学できない大学生とニセコ地区に住む外国人とのワークショップをコーディネートする機会に恵まれました。学生の皆さんと企画を考えたり、講師と英語で話すために沢山勉強して質問を考える学生達にアドバイスしたり。当日を迎え、最初は下を向いていた子が顔を上げて発言する姿や、皆が目をキラキラ輝かせて講師と話す姿を目の当たりにして、人の心が喜ぶ瞬間を感じ、言葉では言い表せないほどの感動をもらいました。プロジェクトに関わってくれた皆さんに幸せの連鎖反応が起きるきっかけづくりに携わることができるのは、グローバルコミュニケーターの醍醐味です！

これから

ニセコ地区は世界各国から多様な価値観を持つ人が集まり、そこには当然隔たりや摩擦が生じます。それでも互いに理解を深め合い、皆が楽しく暮らせる地域になるように、言葉だけではなく心の橋渡しもできたら嬉しいです。カナダで得た知識と経験を生かして、心と体を癒やすことができるアロマセラピーのサロンで、人が本来持つ個性や美しさを引き出し、一歩前に進むお手伝いをしたり、言葉が通じなくても聴いている皆の心をひとつにできる和太鼓の演奏で、日本の文化の素晴らしさを伝えたり。そんな小さな積み重ねを続けていくことで多文化共生が当たり前になり、世界平和につながると信じています。

北の★女性たちへの
メッセージ

幸せは「なる」のではなく「気づく」ことではないでしょうか。大切なことに気づくと必要な情報やサポートしてくれる人々に支えられ、願う方向に少しずつ舵が向くことがあります。最初から無理だと思わずに心が喜ぶことを選択していきましょう！

石狩【札幌市】

わだ じゅんこ
和田 順子さん食×Well-being [good food,good life] 代表、執筆家、
産学連携コーディネーター

群馬県出身。会社員を経て北海道に移住。子育て中の母親が特技やスキルを生かして自分らしく輝ける場や、子育て世代と地域を支える人が、地産地消や地域産業について学ぶ場を通じて交流できる事業を企画運営。現在は食のSDGsに関するイベントやセミナーを各種開催。北海道の社会・地域課題解決を行う経済産業省事業「チャレンジフィールド北海道」のコーディネーターも兼務。2児の母。



次世代に誇れる社会を残したい。「食」の分野でのチャレンジ

きっかけ

北海道に移住後、子育てをしながら1~2年おきに転勤する生活の中で孤独を感じていましたが、羽幌町で同じく子育てをする母親達に声をかけ、子連れで特技やスキルを教え合う「羽幌まなび」というサークルを立ち上げました。子育て中の母親は地域や社会との交流が少ないことに気づき、地域の方に協力していただき、稲刈り体験や漁協見学を通じた交流の場をつくりました。もともと食に興味があり子育て中に食関連の資格を取得したので、札幌に転居後は食育教室を主宰。子どもと母親がのびのびと過ごし、楽しみながら食への関心を高めたり、地産地消を含めた食のSDGsについて理解を深められるイベントなどを開催しています。

苦勞

知り合いがいない地域でワンオペ育児となり孤独を感じていた時期もありましたが、「失敗はしてもいい、後悔はしたくない」と勇気を出して一歩を踏み出したことで生きがいを見つけることができ、後の起業につながりました。コロナ感染拡大以降は対面での場づくりができない状況が続く中、オンラインイベントにも挑戦。生産・流通など様々な立場で食に携わる方々と消費者との対話を通じた相互理解のイベントを企画・運営しました。今はもっと別の視点からも社会や地域の課題に取り組んでみたく、「チャレンジフィールド北海道」でコーディネーターの仕事もしています。いろいろな方から学びをいただき、失敗もしながら私なりに邁進しています。

満足度

2016年から「サルベージ・パーティ®」というフードロスを楽しく減らすイベントを行っています。そのなかで、私たちひとりひとりの行動の集積が社会のあり方そのものだと感じました。そこで現在は取り組みの幅を広げ、食料不足や地産地消など食全体のSDGsを対象とし、食の大きな問題を個人レベルで考え行動できるようなイベントやセミナーを行っています。次世代に大きな宿題は残せないとな身が引き締まる想いです。これらの活動を評価していただき、令和3年度北海道男女平等参画チャレンジ賞を受賞。鈴木知事も大変興味を示してくださり、私の話にも熱心に耳を傾けていただいたことがとても印象に残っています。

これから

自然環境の悪化が進むなか、個人と社会と自然環境すべての「Well-being~満たされた状態、幸せ」をどう両立させるのか。私は得意分野である「食」の切り口から考え続け、トライアル&エラーを繰り返しながら、少しずつ進めていくことがまず自分にできることだと考えています。一方目の前には育ち盛りの子もがいて毎日目まぐるしく、自分ひとりでもできることもそう多くないと感じます。そこで、想いを同じくする方とつながり、共にアクションを起こす方法についてもこれから力を入れて取り組み、次世代に誇れる社会を残すために食の分野でのチャレンジを続けていきたいと思っています。

北の★女性たちへの
メッセージ

私は、自分のように孤独を感じる人の手助けがしたいと思ったことが今の仕事につながっています。小さな「誰かを想う」行動の積み重ねが社会を支え、ひいては自分自身も幸せにしてくれると思います。経済活動だけが社会を支えているわけではありません。自分の身の回りの気づきから、小さくても大切な一歩を踏み出す人がたくさん増えればいいなと思います。

根室【標津町】

さいとう
齋藤さとみ
智美さん

根室海峡ローカルガイドNemuro Strait Local Guide Amutoki代表

埼玉県出身。語学取得のためワーキングホリデー制度を利用してニュージーランドで1年間を過ごす。結婚を機に標津町へ移住し、標津町地域協議会の研修生、標津町観光協会臨時職員を経て2021年5月にNemuro Strait Local Guide Amutoki観光ガイドとして起業。北海道知事認定アウトドアガイド自然分野資格所持。1児の母。



旅行者と地域の架け橋に。根室海峡で編む、かけがえのない時間

きっかけ

ゲストハウスの運営をしたくて、語学習得のためニュージーランドへ。自然とともに生きる暮らしや、ローカルコミュニティとの関わり、素敵な人々との出会いを体験しました。その後、結婚を機に標津町で暮らし始めると、地域の人の温かさ、食べ物の美味しさ、そしてフィールドの素晴らしさと面白さに感動し、まずは観光ガイドとしてフィールドを駆け回ろうと決意。町の地域協議会や観光協会でも体験型観光を学び、観光ガイドとして起業しました。標津のファンを増やし、地元の人にも楽しんでもらうことができたなら、都会にいるよりもっと面白く、子ども達もワクワクするような町になるのではと、日々奔走しています。

苦勞

娘が生まれて間もなくの起業で大変ではありますが、むしろ、娘が暮らしている楽しいと思える地域にしたいという思いが原動力になっていて、時には睡眠時間を削りながら邁進しています。そんな私をいつも支えてくれる家族には感謝の日々です。Amutokiのローカルツアーは、協力してくれる方との入念な打ち合わせやモニターツアーを経て、いくつかのメニューを用意していますが、実際のツアーは一組一組を大切に案内するため、どこへ行き誰と会い何を話してもらうとご満足いただけるか、時間をかけて準備しています。そして毎回反省し、改善していく作業が延々と続くのですが、実はそれが醍醐味でもあるのです。

満足度

体験していただいたお客様に喜んでいただくのはもちろんのことですが、協力していただいた町の方から「楽しかった」「また誘って」という言葉を頂いたときは涙が出そうになるほど嬉しく、やって良かった、また頑張ろうと思えます。また一度体験してくれた人が、お友達を連れて繰り返し訪れ、同じツアーをリクエストしてくれるのがとても嬉しく、更にツアーを通じて出会ったゲストの方と地域の方が繋がりが、その後も想い合える関係が生まれていることに喜びを感じます。Amutokiのツアーを通して、訪れる側と迎える側の両方に楽しんでもらえたなら、標津の魅力をもっと伝えられ、もっと好きになってもらえると思っています。

これから

今は標津を拠点にしていますが、根室海峡沿岸地域全体をコーディネート&ガイドし「日本遺産『鮭の聖地』の物語～根室海峡一万年の道程～」をテーマとした根室管内を巡るツアーのスルーガイドや、海外のお客様のガイドにも挑戦してみたいです。そしていつかは原点であるゲストハウスを開き、繰り返し訪れてくれる旅行者や、地元を離れて頑張る人達を「おかえり」と迎え、「行ってらっしゃい」と送り出せる場所をつくりたい。また、一万年も前から人々の暮らしが連続と続き、かつては世界へ開かれていたこの根室海峡沿岸地域の歴史や文化を地元の子供達が誇りに思い、標津を築いた後も自慢できる町にしていきたいです。

北の★女性たちへの
メッセージ

#嫁入り北海道 というハッシュタグをつけて驚きと楽しさに満ち溢れながら嫁入り移住生活を満喫している仲間と繋がってみたいです!みなさんの嫁に来て驚いたこと、感動したことなどを共有していただき、お互いを応援したり共感したりし合えるムーブメントを起せたら楽しいなと思います!

留萌【羽幌町】

しづや さゆみ
澁谷 紗由美さん LUSH★DANCE School主宰

高校時代に独学でダンスを学ぶ。バックダンサーを目指して上京し、アイドルの振り付けなどを経験。地元の羽幌町に戻ってからは、会社勤めをしながらダンススクールを設立し、町内外の幼児から高校生約70名にダンス指導をしている。



羽幌から夢に向かって。ダンスでまちの元気を取り戻す

きっかけ

高校3年生の時に友達に誘われてダンスを始めました。当時は近くにレッスンができるどころもなく、まだスマホもなかったので、テレビ番組でバックダンサーの技を観察して練習や振り付けに励み、テレビ番組のダンス選手権に北海道代表として2大会連続出場。高校卒業後は、札幌、東京でバイトをしながらいくつものオーディションを受けましたが、芽が出る前に怪我でダンスを続けるのが難しくなり地元へ戻りました。すぐ後悔し、もうダンスはスッパリ辞めて関わることもないと思っていたのに、知り合いから子ども達へのダンス指導を頼まれて、思いがけず指導者の道へ踏み出しました。

苦勞

小さな町の中で、ヒップホップダンスに馴染みもなく、最初の頃は私も生徒も悔しい思いをすることも。それでも彼らはそんな悔しさもバネに、町内のイベントだけでなく、数々の大会やオーディションに出場し、設立6年目には大会での入賞やライブへの出演など、実力を高めてきました。その矢先、新型コロナの影響で町のイベントはことごとく中止。それでも自ら場所を確保してダンスを披露したり、町外のイベントへ出演したりするなど、発表の場を持ち続けたことで、地域住民や町外のダンスチームとの交流も盛んになり、今ではたくさんの人に応援してもらえるダンススクールになりました。

満足度

生徒の指導をする中、ダンスだけでなく社会に出てからも役に立つよう、人脈づくりの大切さなども教えたいと思い、あちこちへ顔をつないでいたところ、なんと自分にもオーディションの誘いが。12年越しの夢を叶え、バックダンサーとして札幌ドームに立ちました。そして今、小学2年の頃から教室に通っている高校生の4人が「[L-WING]」として大きな舞台に挑戦しています。生徒達に夢を話し、「田舎でも夢は叶えられる！場所のせいにはしたくない。」とがむしゃらにもがいてきた日々によりやく結果がついてきてくれて、慌ただしくもとても充実した日々を送っています。

これから

「ダンスで町おこし」を目指して、まずは羽幌町を知ってもらおうとPRしています。大会やオーディションでの結果や、生徒達のSNS発信の効果もあり、「羽幌ってダンスがアツイよね!」という声も。羽幌の魅力が町外にも地元の子も達にも伝わり好きになってもらえたなら、町の活力になるはず。そんな思いを胸に、この町で小さな頃からずっと続けられる習い事としてダンスを確立し、環境を整えながら指導を続けていきたい。そして今の夢は、羽幌高校にダンス部を作り、全国にも通用する強豪校に育てること。町内外の子ども達の挑戦を指導者として支え続けたいと思っています。

北の★女性たちへの メッセージ

たくさん経験して、たくさん失敗して、たくさん落ち込んで、たくさん立ち上がりましょう！
 私はいつもそうしてきました。近道はせず遠回りでもゆっくり自分のペースで良いと思います！
 私もまだまだ夢の途中です。一緒に頑張りましょう！！

渡島【函館市】

やまだ

山田 かわりさん 縄文DOHNANプロジェクト代表

道外での就業を経て、故郷の函館で山田総合設計株式会社に勤務。湯倉神社氏子青年会で地域活動に関わる中で2019年に縄文イベントを開催。イベント協力者を中心に「縄文DOHNANプロジェクト」を発足し代表を務める。また、地方創生カレッジin函館の統括マネージャーも務める。



「縄文の心」で育てた誇りと郷土愛を次の世代へ

きっかけ

高校卒業後しばらく地元を離れて暮らす中で函館の良さに気付いた私ですが、10年ほど前にUターンした時、私の知るまちと比べずいぶん寂しい印象を受け、違和感を覚えました。観光地としてはとても人気があるのに、このままでは地域が取り残されてしまうのではと不安に感じていた時、以前から関わっていた地域活動で縄文をテーマにイベントを開催することに。その中で、縄文時代は1年以上争いもなく、自然や物に感謝する気持ちを持って助け合いの精神で暮らしていたということを知り、「縄文の心」が、まさに今の函館のまちをつなぐキーワードになると直感。イベントの翌月、産学官民の有志で「縄文DOHNANプロジェクト」を立ち上げました。

苦勞

縄文の世界遺産登録を間近に控えながら地域の関心が想像以上に薄れている現状を目の当たりにし、関心を持ってもらう方法を模索する中、中空土偶をモチーフにした縄文キャラクター「カックー」が誕生。オリジナルグッズに加え、子どもから大人まで楽しくわかりやすく縄文を学べる紙芝居を制作し、遺跡見学に向かう小学生に事前授業を行ったことで、縄文への関心が目に見えて高まりました。世界遺産登録までたった2年というタイミングで発足し、一気に走り出したプロジェクトで、目の回るような日々でしたが、その甲斐あって、地域を挙げて2021年の登録の日を迎え、喜びを分かち合うことができました。

満足度

学芸員さんに協力いただき、「はじめてのJOMONガイドツアー」を開催しました。楽しく縄文を学べるプログラムを考えて、バスの中でも紙芝居やクイズで盛り上がり、ツアー終了後には、参加者の数名が新たなメンバーとして活動に加わることに。地域の関心を高め、縄文から郷土愛の育成にも繋げていくことを願って10数名でスタートしたこのプロジェクトですが、活動の輪が広がり、更に仲間が増えていきます。また、地元企業とのタイアップ企画も進み、更には函館だけでなく道南圏の市町の方々の協力も得て、道南全体で世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」を盛り上げる活動に発展しました。

これから

縄文紙芝居は、地域の学校や学生、函館にゆかりのある方々に協力いただき、多言語への翻訳と映像化を行い、世界に向けて映像を発信しています。また、子ども達にも積極的に関わってもらうことで地域に関心を持ち、郷土愛が育っていくことを願い、日本語版には地元の小学生に出演してもらいました。次の世代にも「縄文の心」を伝え、この貴重な世界遺産を地域の宝として大切に守り、ふるさとを誇りに思う気持ちをつなげていきたい。そのためにも今後は道南地域に留まらず、縄文を通じて青森などの他県とのつながりも構築し、より多くの人に縄文の魅力を伝える活動を続けていきたいと思っています。

北の★女性たちへの
メッセージ

大きな事ではなくても自分のできる範囲で地域のために動くことがまちづくりへの一歩です。まちが好きで関心を持つ人が増えていくことが、地域の力になると思います。出来ることは皆さまさま。個性豊かに認め合って、楽しく活動していきましょう。

日高【新ひだか町】

いと い
糸井 いくみさん 一般社団法人umanowa代表

2016年に新ひだか町の地域おこし協力隊として着任し、馬産地の資源を活かした「ひだかうまキッズ探検隊」の企画・運営を行う。2020年に起業し、協力隊の任期終了後も引き続き、町から「馬産地の人づくり業務」を受託するほか、馬産地のPR、グッズの製作販売なども手掛け、馬にまつわる情報発信をしている。



馬との出会いが人との出会いに。馬を通して「つながる」「むすぶ」

きっかけ

札幌で会社勤めをしていた頃、乗馬体験をきっかけに馬の魅力の虜になり、それからの数年間はアルバイトを掛け持ちしながら乗馬に通うという馬中心の生活を送っていました。そんなとき、日本一の軽種馬産地・新ひだか町の「馬力本願プロジェクト」を担当する地域おこし協力隊員の募集があり、思い切って応募。「馬のために自分ができること」を模索しながら活動し、3年ほどの任期の終盤、これからも馬を通して人と人をつなぐ仕事を続けたいという思いから、2020年に一般社団法人umanowaを設立し起業。協力隊での業務を町から受託するという形で継続しながら、新しい取組にも挑戦し、活動の幅を広げています。

苦労

地域おこし協力隊では、年間を通して軽種馬産業を楽しく学ぶ「ひだかうまキッズ探検隊」を立ち上げ、子ども達に地元の基幹産業を知ってもらう活動を行いました。年間10回ほどのプログラムで、馬に関わる様々な仕事に触れ、将来の人材輩出を目標とする事業ですが、最初の頃は行政と現場の立場や考え方の違いで板挟みとなり、戸惑いも多く、心が折れそうになることも。けれど私の思いに賛同し、忙しい中でも協力してくれる地元馬産地の皆さんや、馬のことをもっと知りたいと目を輝かせる子ども達の姿に励まされながら、将来のスター馬と触れあうという、ものすごく貴重で贅沢な体験を子ども達と一緒に続けています。

満足度

探検隊の活動や小中学校での授業で、子ども達は馬や馬産業に関わる多くの方々に会い、つながり、そこに感動が生まれます。その瞬間に立ち会えることが私の喜びに。また、活動のもうひとつの柱として新たに始めた、新ひだか町出身の競走馬のオリジナルグッズの製作販売では、「そばに置いて大事にしたいくなるもの」を目指し、こだわって作ったものをお届けしています。全国の競馬ファンのお客様にグッズを通じて活動を知ってもらえることも、とても嬉しい。どの活動にも共通して、馬と人、そして人と人との出会いがあり、つながっていく。そんな喜びをくれる馬たちに、本当に感謝しています。

これから

馬産地では、生産牧場、育成牧場、獣医師、装蹄師、調教師等々、様々な業種のたくさんの人達が関わり、2年間かけてデビュー前の競走馬を育てています。子ども達には馬と関わり産業や文化に触れることで、将来馬産業の担い手となったり、いずれは競馬で世界を目指す子も出てきてくれたらと夢は尽きません。また、この取組が地域に必要なものとして、将来に渡り続けられるように、いずれこの役割を引き継いでもらえる体制づくりも必要だと思っています。これから何をするのかはまだわからないけれど、自分が馬とどう関わっていきたいのかを考えつつ、直感を信じて新しいことにも挑戦していきたいと思っています。

北の★女性たちへの
メッセージ

やってみないことには何もわかりません。やってみて失敗があったとしても、それは次に繋がるプロセスに過ぎないと思います。やりながら次の手を考えて…をひたすら繰り返していくと、自分だけにしか見えない未来の道がうっすらと見えてくるものだと思います。

石狩【石狩市】

おいだ え
老田 よし枝さん (株)石狩レッドフェニックス代表取締役、(株)フェニックスサポート代表取締役

2018年にアスリートフードマイスター1級を取得。同年、冬の室内練習場としてフェニックスフィールドをオープンするとともに、(株)フェニックスサポートを設立。2020年に(株)石狩レッドフェニックスを設立し球団代表に就任。2021年度より札幌大学非常勤講師。2022年度北海道男女平等参画チャレンジ賞を受賞。



日々を真剣にすごす若者に勇気を与え、夢を支える

きっかけ

10数年間アメリカで暮らしていたのですが、医療費が高額なので、とにかく病気をしないようにと栄養について学び、家族の健康維持に努めていました。そんな中、たまたまテレビでアスリートフードマイスターという資格を知り、野球に夢中になっている息子達の食事作りに役立てようと3級の資格を取得。するとやる気に火がついて、上位資格に挑戦するため本格的に栄養学を学び、2級と1級を取得しました。そして同じ年に、北海道のアスリートをサポートする体制を強化する(株)フェニックスサポートの設立へ。もともとは息子達をサポートするために始めたことが起業につながりました。

苦勞

野球を中心としたスポーツ関連の仕事で人脈が広がり、栄養を指導する立場として独立リーグの立ち上げに携わる中、思いがけず球団代表の道へ。ゼロからのスタートで、手探りですべてを築き上げ、しかも全く経験のない球団運営は本当に大変ですが、地域活性化と、若者の夢を応援するという2つの目標に向け、日々奔走しています。全国から選手や球団職員を募集して石狩市民として受け入れ、行政や地元企業の協力を得て選手達が野球に打ち込める環境を作りました。選手達は「石狩」の名前を背負い、全力でプレーしてファンに夢を与え、さらに地域の労働力としても活躍することで、まちに活力を与えてくれています。

満足度

独立リーグの選手達は、働きながら練習し試合に臨むという生活で夢に挑戦しています。そんな彼らが少しでも良い環境で野球ができるよう、就労先の企業にご理解とご協力をいただき、収入面の安定を確保しています。また、球団の寮では、しっかりと栄養が摂れるように、配膳業者の協力を得て献立と食材を用意してもらい、選手達が交代で調理しています。チームが結果を出すことはもちろん嬉しいのですが、人生を懸けてひたむきに夢を追う選手達を応援できることが私の原動力になります。NPBを目指し挑戦し続ける選手達を経営者として支えつつ、彼らが社会人としても人間としても成長できるよう見守っています。

これから

野球人口の減少で、単独でのチーム結成ができない中学の野球部が増えている中、子ども達が野球を続けていけるよう中学生の軟式野球クラブチーム「石狩レッドフェニックスJr」を立ち上げました。野球に親しみ楽しく続けることを第一に、人を育む活動をしていきます。野球が好きなお子も達に夢を与えられるよう、「石狩レッドフェニックス」と「北海道フロンティアリーグ」の知名度を上げ、いずれは日本全国の独立リーグと肩を並べられるようレベルアップし、北海道の野球をもっともっと盛り上げていきたいです。彼らが活躍する姿を見て、子ども達も将来に大きな夢を描きチャレンジしていく、そんな存在になれたらと思います。

北の★女性たちへの
メッセージ

一生懸命に頑張れば、絶対に同志ができ同じ夢を持っている人が集まります。諦めずに前進するのみで、失敗したらそれを糧にもっとジャンプできます。そして常に謙虚に、向上心を持つこと。人生は何が起こるかわからないけれど、困難も楽しんでいきましょう。

釧路【釧路市】

くしろ子育てネットワークHaport ハポート (代表 いとうみやこ 伊藤美也子さん)

2017年11月設立。転勤族の妻をはじめとしたママ達が情報発信やイベント開催など様々な取組を展開し、活動の幅を広げるとともに、市の子育て円卓会議の専門委員として子育て世代の声を届けるなど、釧路の子育てになくてはならない存在となっている。令和4年度北海道男女平等参画チャレンジ賞を受賞



人とつながり、思いを届け、幸せな子育てができるまちへ

きっかけ

夫の転勤で釧路へ来たばかりの頃、子育てや街に関する情報発信がないことにとっても不便を感じました。でも住み始めてあちこち訪れてみると素敵な場所が沢山あり、子連れで楽しめる公園やお店の情報など、自分のワクワクを毎日ブログで発信。すると次第にフォローしてくれる人が増え、もっと情報が欲しいという声が集まるようになりました。転勤族の多いこの街では、ママ達は情報不足で困っている。だったら本格的に情報発信する体制を作ってみよう、くしろ子育てネットワークHaportを設立。「住んだ街で楽しみたい」という思いで、転勤族の妻を中心としたママ達の協力のもと、交流できる場づくりを始めました。

苦勞

最初はSNSでの情報発信と月に1回の交流会を行っていましたが、情報誌を望む声が多くなり、釧路新聞社さんの協力で念願のフリーペーパーを発行することに。市内のママ達に「ハポライター」として記事を書いてもらい、そう高くないパソコンスキルを駆使して編集した子育て情報誌Haportは、年2回市内の子育て家庭に配布されています。活動の中心となっているのが転勤族の妻ということもあり、きちんとした組織として定着するのが難しいという課題はあるものの、サポートメンバーだけでなく多くの市民の方に、それぞれ無理のない範囲とタイミングで協力してもらおうというスタイルでイベントを開催しています。

満足度

活動を続けるにつれ、市や道など行政の支援が得られ、助成金を活用した大きなイベントもできるように。最初の頃は、例えばおさがり交換会を実施するにも、スタッフがおさがりを直接受け取りに行くなど、労力も経費もなかなかのものでしたが、今では市内の子育て支援センターに回収BOXが設置されています。また、市の子育て円卓会議の専門委員として親達の声を行政に届ける中、要望の多かった屋内の遊び場が実現。既存の施設を活用し、週1回の「ちびっこマンデー」として親子で思い切り遊べる場所ができました。皆の声を集めた提案・発信に行政が耳を傾け、応えてくれる、子育てのしやすい街だと感じています。

これから

Haportは、アイヌ語でお母さんの「ハポ」と、港や接続の意味を持つ「ポート」の造語で、ママ達がつながる居場所でありたいという思いを込めた名前です。これから釧路に来る人達も含め、縁あって同じ地で子育てをする皆が、子どもと自分の幸せを第一に考え、安心して暮らせるまちにしたい。そしてこれから先、活動の形は変わっても、この思いがつながっていくことを願っています。今後は、若い世代とシニア世代が情報を共有してつながることができるように、片面は子育て、もう片面はシニア向けの介護や病気・終活といった情報を1冊にまとめた、様々なライフステージに役立つ情報誌を作りたいと思っています。

北の★女性たちへの
メッセージ

4児の子育てをしながらの活動は無謀と思われることもあるかもしれませんが、転勤族という武器で得た全国各地とのご縁は宝物。どんな環境でも行動を起こす、継続することで景色が変わることを実感しました。私もチャレンジしてみよう！という連鎖があれば嬉しいです。